



# しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 <http://www.suw.ac.jp>

## 新学部誕生！

### 子ども学部・子ども学科の紹介

本学は、子ども学部子ども学科を、この4月に新設しました。定員は50名、専任教員12名の体制でスタートしました。

子どもを理解し、子どもたちの健やかな心身の育ちを守ることに加え、発達障がい児や気になる子（落ち着きがない、集団行動が困難、コミュニケーションが困難など）の支援方法や、保護者や地域における子育てに関する相談に対応できる援助技術などの専門知識を学ぶことが、本学科の特色といえます。

今後、幼保一体化の施設である認定こども園の増加が予想されますが、本学では幼稚園教諭免許と保育士資格の2つの資格・免許が取得できます。

1年次から早速、「子どもと運動」や「子どもと遊び」、「音楽」、「造形表現」、「保育実践入門」などの専門科目が開講され、学生たちの元気な声をキャンパス内外で聞くことができます。以下、その内容を少しだけ紹介します。

「子どもと運動」の授業では、幼児を対象に行う様々な運動遊びについて、楽しみながら、実践的に学習していきます。この授業は、竹馬など昔ながらの伝承遊びもどんどん取り入れていきます。子どもの運動経験が少なくなってきた



竹馬の練習

いると言われていた現在、安全に楽しみながら、どこでも実践できる運動遊びを学ぶことの意義は、大きいと考えられています。



課題のアイデアを考え中

きる保育者に成長してほしいと考えています。

「造形表現」の授業では、基本的な造形表現の技法を学ぶだけでなく、つくる楽しさ、表現する楽しさを感じられる授業を目指しています。発想力や創造力を育むことで、子どもたちの感性を豊かに導くことができています。

「音楽」の授業では、クラスを半分に分け、歌唱とピアノのレッスンを45分交代で行っています。歌唱はグループレッスン、ピアノは個人レッスンです。どちらも基礎をしっかり学びます。ですので、ピアノは初心者だという学生もちろん大丈夫、個別に丁寧な指導をしています。



歌唱のグループレッスン



ピアノの個人レッスン

学生と教職員の距離が近く、一人ひとりを丁寧にみることができるといいます。本学の特色を生かして、今後もきめ細やかな教育に努めてまいります。

# 新任紹介

本年度新たに6名の先生が加わり、  
本学の教育体制はますます充実してき  
ました。以下に新任の先生方をご紹介  
します。

## 社会福祉学部

### 福祉心理学科

安留 孝子 准教授



安留 孝子先生

### 専門分野

社会保障、地域福祉、介護福祉

### 担当科目

社会保障、社会の理解、社会理論と  
社会システム、相談援助演習、相談  
援助実習指導及び実習

### メッセージ

皆さん、はじめまして。4月に福祉  
心理学科に着任した安留孝子です。ど  
うぞよろしく申し上げます。

私はこれまで12年間、大学教員とし  
て社会福祉士養成や広く教養として福  
祉を学ぶ学生の教育に携わってしまし  
た。本学でもすでに授業や実習の個別  
指導などで学生との交流が始まってい

ます。積極的に私の研究室を訪問して  
質問したり、将来の目標などを話して  
くれたりと、非常に意欲的な学生が多  
いので、こちらも大変やりがいを感じ  
ています。

研究面では、ここ数年は「社会保障  
分野における国際協力」というテーマ  
に関心を持っています。2012年にJICA  
Aの社会保障有識者としてインドネシ  
アを訪問してから、「インドネシアの  
保健医療とコミュニティ」に関して調  
査を続けています。また昨年1年間は  
大学教員の仕事を離れ、インドネシア  
で多くの時間を過ごしました。調査研  
究だけではなく、現地の公衆衛生の研  
究者や保健医療従事者と意見交換をし  
たり、イスラム学校で日本語や日本文  
化を教えるボランティアをしたりして  
いました。授業やゼミナール、課外講  
座などを通して、学生の皆さん、地域  
の皆さんに、私の経験や研究成果を広  
く伝えていきたいです。また、静岡県  
というとても素晴らしい場所で、学生  
と共に地域に貢献できるような活動を  
していきたいという期待を持っていま  
す。



### 医療福祉学科

磯田 雄二郎 特任教授



磯田 雄二郎先生

### 専門分野

医学、精神医学、精神科治療学

### 担当科目

人体構造及び疾病、臨床医学B、臨  
床医学D、医学知識(子ども学部)

### メッセージ

このたび医療福祉学科に就任いたし  
ました磯田雄二郎(いそだ ゆうじろ  
う)と申します。よろしくお願いま  
す。普段は焼津市内にある単科精神病  
院である(医)高草会 焼津病院とい  
う病院で、日常臨床に励んでいます。  
元来が思春期・青年期の精神疾患を主  
たる専門分野として臨床経験を積んで  
まいりました。大学生のころから伊藤  
英雄教授(文化功労者です)のもとで、  
小脳の研究に打ち込んできました。そ  
の頃はまともな実験用具もなかったの  
で、自分で作るために、大学からほど  
近い秋葉原のジャンク屋に通っては、  
増幅器を手作りしていました。この40  
年で「アキバ」(僕はよくこう呼ん  
でいました)も全く様変わりして、  
フィギュアとメイドさんの町になって  
しまい、ジャンク屋でパーツを探して  
一日過ごすところから、「爆買い」の

町へと変化してしまっています。それ  
でもまだまだ奥へ行くと昔の風情が残っ  
た秋葉原に出会えます。少し愚痴っぽ  
くなりましたね。話を変えましょう。  
ということ、これからみなさんの医  
学的な知識の理解と獲得とに少しでも  
貢献できればよいなと思っています。

## 子ども学部

### 子ども学科

二木 秀幸 専任講師



二木 秀幸先生

### 専門分野

音楽、表現

### 担当科目

音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、子どものための音  
楽表現、保育内容(表現)Ⅰ・Ⅱ

### メッセージ

子ども学部の設置に伴い本学にお世  
話になることになりました二木でござ  
います。まずは私のプロフィールを…

3歳よりピアノを始める。これまで  
に数々のオペラ、バリトンソリスト、  
コンサートにおける語り役、ストレー  
トプレイ等の舞台経験をもつ。また  
ミュージカルにおいては、作・編曲及  
び出演もこなす。また演出、音楽監督、

音響としても活躍する。平成13年より厚労省の外郭団体である児童健全育成推進財団が主催する児童劇巡回事業に参加、全国の児童館等で公演・ワークショップを行い、多くの子供たちと交流してきた。また、各種劇団・合唱団や大学等においてヴォイストレーニング、ワークショップ、表現教育を行うとともに、全国各地においての演奏活動（コンサート・各種イベント・ディナーショー等）やコンピュータを使った音楽制作にも精力的に取り組んでいる。

と、硬い自己紹介になりましたが、音楽大好き、表現大好き人間です。本学を表現活動の面から大きくしていきたい：そう思っております。

見た目はスキンヘッドで、少々（？）近寄りたさそうですが、みなさまどうぞお手柔らかによろしく願っています。

丸尾 真紀子 専任講師



丸尾 真紀子先生

専門分野

音楽（ピアノ）

担当科目

音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、子どものための音楽表現、保育表現技術A・E、保育内容演習E

メッセージ

今までフリーで活動してきました。静岡市内の短期大学や音楽教室で講師を務めたり、色々な楽器の伴奏やアンサンブルでピアノを弾いたり、その合間になぜかフォークリフトの講習を受けたり…。こんな風に過ごしてきた、人間も物事も色々な角度から見て考えることが大切だな、と感じるようになりました。

緑豊かな居心地の良いこのキャンパスで、様々な専門の先生方と多くの可能性を持つ学生さんたちと出会い、「新しい角度」を発見する一歩を踏み出したことを嬉しく思います。どうぞよろしく願っています。

岡村 由紀子 特任講師



岡村 由紀子先生

専門分野

保育、保育臨床

担当科目

障がい児保育、保育所実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ、保育実践入門  
メッセージ

●0年保育現場にいる岡村由紀子です。

子ども達は、「おかちゃん」「園長先生」「由紀子先生」なんて・呼んで

くれています。子ども達の世界は、素晴らしく、子ども達の輝く姿に魅せられて今があります。

大人は、この素晴らしい子どもの世界を余り知らず、とてももったいないな！と思っております。「学びに子どもを合わせるのではなく、子ども理解の為に学びがある」と考え、保育現場の子ども達の心や保育実践を「科学する」視点で、現場で30年過ごした後、大学院に入り、今は現場（幼稚園・子育て支援センター2・小規模保育所・幼児総合施設）と研究の生活をしています。福祉大学との出会いは、太田学長先生の「障がいのある子もいない子も同じに保育を楽しめる保育を創り出せる高いスキルを持った学生の養成をしたい」という願いが、自分の願いと重なったからでした。学生さんに保育の素晴らしさ子ども達の素敵さを理論とともにお伝えできたらと楽しみにしています。どうぞよろしく願っています。

八木 朋美 助教



八木 朋美先生

専門分野

造形、グラフィックデザイン

担当科目

造形表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

メッセージ

こんにちは。わたしは北海道で生まれ、ここ焼津で育ちました。大学卒業後は、地元企業の企画室や東京の制作プロダクションで、広告や商品開発のデザインに従事してきました。その経験を生かし、大学で造形表現の授業を担当することとなり、今日に至ります。

デザインのベースは、「思いやり」だと考えています。使うひと・関わるひとを思い浮かべて、伝わるかどうかを想像したり、心地よさや喜びを生み出せるように努めたり、困っていることとの解決を目指したり。そのような気持ちをもなさんと共有できるようになれたらいいなと思っています。



福祉創造館の前で：左より丸尾先生、八木先生、安留先生、二木先生

# 卒業生だより

福祉心理学科 6期生

植田 瑞穂

臨床心理士になることが将来の夢だった私は、二年前に静岡福祉大学を卒業した後、上越教育大学大学院修士課程学校教育研究科にある臨床心理学コースに進学しました。修士論文のテーマは、「自閉症スペクトラム障害のある児童への社会的スキル訓練の効果」です。そして、今年三月に修了し、四月より静岡と新潟の中間地点にあたる長野県青木村にスクールカウンセラーとして就職しました。

青木村は、長野県上田市の西側に位置する村です。周囲に、夫神岳（おがみだけ）、子檀嶺岳（こまゆみだけ）、十観山（じゅっかんざん）がそびえ、千曲川に注がれる清らかな川が村内を流れています。緑豊かな農村です。

仕事内容は、週に一回の保育園、小学校、中学校の各校にカウンセラーとして訪問すること、三か月に一回の新生児検診、一歳六か月検診、三歳児検診にスタッフとして関わることなどです。このほか、保健師さんや保育士さん達と月に一回未就園児とお母さんが一緒に参加できるイベントの運営のお手伝いもしています。私は、学生時代からスクールカウンセラーとして子どもの支援をしたいと思っておりました。



植田さんがカウンセリングを行っている部屋

ですから、このように夢がかなって、とても嬉しく思っています。

ところで、全国的にみると、青木村のように、一つの村がスクールカウンセラーを雇用することはとても珍しいことかもしれません。実は、青木村は「村の子どもは村で育てる」「村の宝として子どもを育てる」「一人の子どもを育てるには村一つ必要」という考えの下、子育てや教育にとっても力を入れているのです。先生や保育士さん、保健師さんなど子育てに関わる人達は、子ども達の為を思って動いています。加えて青木村は自然がいっぱいの所です。ですから、この村の子ども達はとても良い環境の下で勉学ができています。なあ、と感じています。ついでに申し

上げれば、私自身も優しく接して下さる方たちや豊かな自然に囲まれて、居心地よく過ごしております。

しかし、仕事上は、まだまだ勉強不足で、現場経験も皆無な新人の私です。それでも、子ども達が「植田先生だ！」と声をかけてくれたり、「先生と話せてよかった」と言ってくれたりすると、一所懸命やってきてよかったな、と思います。

子ども一人ひとりに異なる個性がありますから、実際の子どもへの対応は知識通りにはいきません。今はまだ、このことを実感し、学んでいる段階です。でも、もっと勉強して経験を積み、将来、少しでも多くの子どもの役に立てるスクールカウンセラーになれるように、これからも頑張っていきます。

## 医療福祉学科 3期生

鈴木 木李麻

私は、静岡県立静岡がんセンターで、診療情報管理士として働いています。入職してから二年目となり、日々の業務にも慣れ、気持ちにも余裕が出てきたところです。

最初に、私が診療情報管理士を目指したのは、「病院で働ける職業ならば、就職に困らないだろう」という理由からでした。大学に入学した時は「診療情報管理士」とはどのような職業なのか、全く理解していませんでした。

しかし、大学で勉強していく中で、



鈴木さんと恩師の河村保孝先生  
(於 診療情報管理士認定式)

診療記録の精度の向上やデータの加工・分析などを担って医療機関を支えている存在であることを知りました。また、三年生の病院実習では、実務を体験させていただいたことよって、一層、診療情報管理士の専門性と必要性を実感しました。そして、単なる「資格取得」という目標から、「診療情報管理士として働きたい」という気持ちへ変わりました。

今、振り返ると、こうした強い意欲が勉強の励みになり、三年生で資格試験に合格をすることができたのだと思います。また、試験に合格していることが自分に自信を持たせ、じっくりと就職活動に取り組むことができました。入職した一年目は、一つ一つの業務を行うにあたって、その都度、先輩に教えていただきながら、仕事をしておりました。おかげで、二年目に入った今年は、私もそれなりに仕事を行えるようになったと感じております。今は、

速度を上げて確実に仕事を行うことを努めています。また、診療情報管理士として正確な情報を保つことが必要であるため、緊張感を持って仕事をすることも心がけています。

診療情報管理士の仕事はデスクワークの仕事です。そこで、自分の健康を保つために運動をしたいと思って、今年から職場のテニスサークルに参加するようにになりました。メンバーは、がんセンターの職員だけでなく、外部の方も参加しており、たくさんの人たちと交流ができます。私は、知り合いのいない土地での生活となっているため、こうした形でプライベートを充実させることができたことは、仕事への活力を高めることにつながっているように思います。さらに、最近では同期での集まりもあり、他部署の近況を知ることがができます。同期といっても年齢層が幅広く、会話の中でも勉強になることが多いです。学生の頃は、社会人になったら仕事ばかりの生活になってしまっているのではないかと、思っていました。が、思っていた以上に人と関わる機会が多く、日々を楽しく過ごすことができていると思います。

診療情報管理士の業務を遂行するには、他部署との良いコミュニケーションが必要で、個々に関わりを持つ方との関係を大事にしつつ、今後、医学が進歩していく中で診療情報管理士としての知識や経験を積んでいきたいと思っています。



浪崎さん

### 短期大学部 介護福祉学科 6期生 社会福祉学部福祉心理学科 4期生

浪崎 礼香

現在、私は、訪問介護事業所のサービス提供責任者として勤務しています。具体的には、主に、ホームヘルパーとして、ご利用者のお宅に訪問させていただき、掃除や調理、入浴介助、買い物付き添い等を行っています。ご利用者が安心してご自宅で生活できるように、生活面だけではなく精神面の不安等にも配慮して援助しています。また、ヘルパーの他に、配食サービスにも携わっています。

福祉には様々な分野がありますが、短期大学で主に介護の基本を学び、その後、大学に編入学して社会福祉を学びました。このように幅広く学んだことから、私は自分がどのような分野で働きたいか、適性があるかどうかについて、比較をしながら考えることができました。

今、振り返ると、学生時代に学んだ知識や技術は出発点であり、実際に現場で働く上での後押しになってくれた

と思います。特に、印象深い思い出としては、海外研修でオーストラリアに行き、日本との違いを実感した体験です。これは、今後の介護福祉や社会福祉を考える機会となりました。

この他に、募金活動をしたことや地域交流センターにおける活動も印象に残っています。ボランティア・コーディネーターの方が学生の希望するボランティアを探してくれたり、主催者と繋げてくださったりと、様々なボランティアができる体制になっていました。ですから、もっとそれを活用して、様々なボランティア活動をしてみたいかな、と今になって思い出します。

こうした学生時代の体験から、私は介護福祉士を選択し、介護福祉士としてのキャリアを積み重ねてきました。

前述したとおり、現在は、責任者として訪問介護事業所のサービスの調整や他職種との連携をはかる役割を担っています。その際には、ご利用者がご自宅での人らしい生活を続けられるように、ご利用者の気持ちや考えを伺うことを心がけております。また、決められたサービス内容にはなりますが、ご利用者の不安や悩みを伺って、問題の解決と一緒に考え、少しでも解消できるように支援援助することも大切な役割だと、日々の業務にあたりています。私が目標としているのは、

ご利用者から「この人に来てもらって良かった」と思ってもらえるような存在となって、ご利用者と良い関係を築いていくことです。



工作中的浪崎さん

その一方、社会福祉士として仕事をしたことはまだありませんが、ご利用者の生活を支えていくために、社会福祉の幅広い視点からご利用者やご家族の相談にお応えできるようになりたいと考えております。

この他に、実習生の受け入れを積極的にやりたいとも思います。実習生に介護福祉の現場で働きたいと思ってもらえるよう、自信をもって介護職員としての思いを伝えていきたいです。

就職して5年目に入った今でも、日々、ご利用者から教えて頂くことは多々あります。その一つひとつは私の自信や力となり、ご利用者と一緒に笑い合える瞬間に、介護職について良かったな、と思います。これからもご利用者から必要とされる人になれるよう、頑張りたいと思います。



神谷さん

### 健康福祉学科 3期生

神谷 莉奈

今年の4月、介護福祉士として特別養護老人ホームに就職しました神谷莉奈です。

今、仕事を通して最も関心をもって  
いることは、生活の質（QOL）です。  
一人ひとりの入居者の生活を支援する  
ことは奥が深い仕事です。それは、そ  
の方が今までどのような生活を送って  
きたのか、どのようなことが嫌いな  
か、どのように関わることがその方の  
一番の幸せにつながるのか、などとい  
つたことを日々考えていくことだから  
です。そもそも生活とは、一人ひとり  
違うことが当然で、人それぞれの、そ  
の素晴らしい生活があると思います。

でも、その当然のことをホームのな  
かで提供することが、実は一番難しく、  
悩み考えさせられます。例えば、いま  
家で生活をしていて、好きな物を好  
きなだけ昼夜問わず食べていた方が  
いるとします。その方にとってはそれが  
当たり前の生活で、幸せな過ごし方  
であると思います。しかし、施設に入所

されたら、その生活の維持は果たして  
可能でしょうか。体重はどうだろうか？  
膝への負担は今後ないだろうか？朝昼  
晩の食事に影響はないだろうか？など、  
その当たり前の生活のリスクが付きま  
といます。私たちは、生活を支援する  
のと同時に入居者の方の命を預かりま  
す。このように、入居者の方のご希望  
通りの生活を提供するのか、またはリ  
スクを減らした生活を提供するのかと  
いう迷いとともに、本当にもどかしさ  
を感じます。また、私たち介護職に出  
来ることの限界を知りました。

このほかに、今、実感していること  
は、私の知らない事、知識・知恵・経  
験を熱心に教えて下さる先輩職員や上  
司の存在です。本当に、尊敬と敬意を  
感じる日々でもあります。しかし、新  
人の私にもできることはあると思い、  
今は周りに支えられながら「良い介護  
とは何か」を追求していく日々です。

学生時代を振り返ると、実習生の頃、  
介護の現場について分かったつもりで  
いた自分を恥ずかしく思います。もっ  
としっかり観察し、考えを深められ  
たら良かったと後悔しています。

高齢化が進んできた日本では介護の  
仕事が目目を浴びてきているせいか、  
ネットなどで「誰でも出来る仕事」と  
言われているのをよく目にします。し  
かし、実際の現場に身を置くと、そ  
うには思いません。介護の現場では、  
日々どのような支援をしていけばいい  
のか、試行錯誤を繰り返しています。  
最善を尽くす上司を見て「ああ、プロ



工作中的神谷さん

とはこういうことなんだ」と感じると  
同時に、介護職としての責任の重さも  
感じるようになりました。

就職したばかりで、社会人としても  
介護福祉士としてもまだまだ未熟な私  
ですが、指導を頂きながらチームの一  
員として入居者の方たちと関わること  
や、自分の理想の介護を追求していく  
ことを追求していきたいと思えます。  
そのためには、経験を積んでスキルア  
ップをはかっていきたいです。また、今  
後、介護職を目指す学生を応援するこ  
とも出来たら良いなと思います。

最後になりますが、この仕事につ  
いて良かったと心から感じています。辛  
いこともたくさんありますが、本当に  
やりがいのある仕事だと思えます。誇  
りをもって今後も努力していきたいと  
思います。



# 大学行事

## 1. 静福祭&ホームカミングデー

日時…11月8日(日)  
場所…本学全体

\*お越しの際は、なるべく公共機関をご利用くださいますよう、ご協力をお願いいたします。

今年のテーマは「輪—人と人とのつながり」です。目下、望月理子(福祉心理学科3年) 大学祭実行委員長をはじめとする実行委員50名ほどがいろいろな準備を行っているところです。

この静福祭当日に、ホームカミングデーも行われます。これは、卒業生の皆さんの交流の場です。卒業後は、それぞれに忙しくお過ごしのことと存じますが、久しぶりのキャンパスを訪れ、懐かしい人たちとの心温かなひとときを持つのもいかがでしょうか?ご来場をお待ちしております。

## 2. 第9回高校生スピーチコンテスト

日時…11月22日(日) 13時~16時30分  
場所…本学福祉創造館第二大講義室

今年は、「広かれ、支えあい」がテーマです。第一次審査を突破した高校生たちの熱意あふれるスピーチを、ぜひ、聞きにいらしてください。



## 【本学キャンパスのイラストを掲載しています!!】

今年度の企画として、「あなたが見たキャンパス風景」をテーマに、学内でイラストを募集しました。入選作品3つを掲載しておりますので、ぜひご覧になってお楽しみください。



今回は、みなさんからイラストを募集するという企画を設けましたが、中庭のイラストが二作品、福祉創造館のイラストが二作品、入選となりました。中庭は、入選作にもあるように、普段は学生や教職員が行き交い、時にはシャボン玉をふいて遊ぶ学生や、芝生に寝転んでいる学生の姿に出会うことがあります。また、四季によって表情を変える木々や花々を楽しむことができます。何かの折にはぜひお立ち寄りいただければと思います。

# 「やなせたかしの歩み」展

(三部構成) ～内容紹介～

## ◆第一部

### 「やさしいライオン」展

7月23日(木)～9月10日(木)  
休館 土日祝・8月10日～14日



『やさしいライオン』  
フレーベル館

幅広い世代に愛される「アンパンマン」の生みの親、やなせたかしさんは、作詞家として「手のひらを太陽に」を世に出し、漫画家、絵本作家、編集者、詩人、作曲家、脚本家、舞台演出家と多彩な活動をされ、2003年10月13日、94歳で逝去されるまでに多くの作品を生み出されました。

やなせさんの生涯が、作品にどのように映しだされてきたのかを、三部構成で紹介していきます。

是非、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。



画像提供：フレーベル館

やなせさんといえば、「アンパンマン」の印象が強いかもしれませんが、実際に「アンパンマン」が絵本に登場したのは、やなせさんが54歳のときであり、絵本作家や詩人としての活動が始まったのは40歳を過ぎてからです。不遇の子供時代、戦争体験、22歳で戦死した弟への想い、苦悶と絶望の日々：多くのつらい体験をされたやなせさんの生涯をたどります。

また、1971年ラジオドラマとして発表

された『やさしいライオン』は、みなしごライオンのブルブルと育ての親となったため犬のムクムク親子の愛情物語です。1969年『キングダーおはなしえほん』(フレーベル館)で初めて絵本化され、その後、映画、紙芝居等大きな反響を呼び、やなせさんの代表作となりました。この作品が『チリンのすず』そしてやなせさんを代表する「アンパンマン」へと繋がっていきます。

展示会では、やなせさんの生涯を、その後に繋がる『やさしいライオン』と共にお伝えします。

## ◆第二部

### 「みんなの味方」

### 「ころ優しきヒーロー誕生」展

10月8日(木)～11月13日(金)  
休館 土日・11月3日



キンダーおはなしえほん傑作選  
『あんぱんまん』フレーベル館

1973年、フレーベル館の『キングダーおはなしえほん』に「あんぱんまん」が初めて登場しましたが、実はその前に「あんぱんまん」の基になったお話が

『十二の真珠』(1970年)に載っています。どちらでも決して恰好よくない、そして力の強くないヒーロー像が描かれています。本当の正義を行うヒーローとは何なのか：やなせさんが行き着いた答えが「アンパンマン」でした。

展示会では、「アンパンマン」に込められたやなせさんのメッセージを探りながら、誕生から、現在の「アンパンマン」までの変遷を振り返ります。

## ◆第三部

### 「生涯現役人生」

### 「ノスタル爺さん」展

11月19日(木)～12月23日(木)  
休館 土日

やなせさんは、「アンパンマン」ブレイク後も、絵本や詩の創作活動に意欲的に取り組み、生涯現役を貫かれました。『愛と勇気の絵本シリーズ』(フレーベル館)の絵本創作のみならず、『詩とメルヘン』(サンリオ)、『詩とファンタジー』責任編集、『たそがれ詩集』(かまくら春秋社)等を出版。

また、2011年3月の東日本大震災では「アンパンマンマーチ」が被災した子どもたちに笑顔を与えたことを知り「アンパンマン」のポスターを届けるなど、被災地の皆さんを積極的に元気づけてこられました。

展示会では、やなせさんの生涯現役人生を作品と共にお伝えします。